【授業科目】成人慢性期看護学実習　　Adult Chronic Nursing Practicum

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大久保 仁司、豊田 妙子、吉田 和枝 小寺 直美、吉川 尚美	３年次 後　期	必　修	３	１３５	実　習	あり	巻末 掲載	否

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／成人期にある慢性的な経過をたどる健康に障害をもつ人とその家族（以下、対象者）の健康レベルを判断し、個別的な健康課題を解決するための具体的な看護援助を見出し、看護実践能力を養うことを目標とする。そこで、本実習では、慢性期（終末期含む）にある対象者を受け持ち看護過程展開、カンファレンスでの議論等を通して慢性期における看護援助の方法・役割、チーム医療、継続看護について考え、今後の課題を明らかにする。課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／日々の実習内容について、口頭での指導および提出された記録類にコメントをつけて返却する。
実務経験に関する授業内容	看護職として医療機関などで実務経験を有する教員が、臨床で生じる様々な事象について学生の理解が深められるよう専門的な知識をもとに意味づけして説明し、対象理解や援助の必要性につなげられるように教授していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①慢性の経過をたどる対象者に対して、身体的・心理的および社会的側面について総合的に説明できる。 ②慢性の経過をたどる対象者に対して、根拠に基づき病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 ③慢性の経過をたどる対象者に対して、倫理的配慮をしたうえで個別的看護実践と評価ができる。 ④保健医療チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 ⑤慢性の経過をたどる対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	※詳細については、実習要項を参照してください。
授業計画	・実習期間は、令和７年９月１６日～令和８年２月２７日のうち１５日間 ・実習時間は、原則として、９：００～１７：００ ※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。 大久保 豊田 吉田 小寺 吉川
評価方法 評価基準	※詳細については、実習要項を参照してください。
学生への助言等	慢性の経過をたどる健康問題をもちながら、日常生活にもどるための療養をしている対象者に対して看護援助を実施するには、必要な情報の整理とアセスメントをする力が重要となってきます。どのような人生を送り、どのような役割を担っている方々なのかを理解し、個別的な看護を提供するために、個人・グループの力を最大限に発揮してください。主体的な学びを期待しています。